

2006

4月号

川上ダム通信

発行者
独立行政法人水資源機構
川上ダム建設所
〒518-0294
三重県伊賀市阿保 251 番地
TEL: 0595-52-1661 (代)
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami>

一日も早いダム本体着工を目指して ～伊賀市長との懇談会～



伊賀市長との懇談会の様子



事業説明の様子

平成18年4月17日(月)に今岡睦之伊賀市長との懇談会を川上ダム建設所において行いました。この懇談会は、流域の利水者や地域のニーズを踏まえて事業

を進めるための情報発信と関係機関との調整を目的とするもので、平成16年度から始まり、今回は5回目の開催となりました。

懇談会では恒吉所長から川上ダムの現況と今年度の課題について説明を行い、その後の意見交換において、1日も早くダム本体工事に着工するために、地域の方々にご協力をいただき、早急に事業計画を固め、法定手続き(河川整備計画、水資源開発基本計画、事業実施計画)を完了させることが不可欠であることを確認いたしました。今後も地域の声を聞きながら、この伊賀の地域のために事業推進に努めて参ります。

【調査設計課長 大原基秀】

『作業手順を再確認し、3大要因事故を一掃しよう!』 ～H18労働安全重点目標を決定～

今年度第1回目の安全協議会を4月18日(火)川上ダム建設所において開催しました。昨年度はお陰様で、1年間無事故で過ごすことができました。今回の安全協議会では、今年度も無事故で過ごせるように労働安全重点目標という1年間の目標(標語)を設定しました。各出席者の討議の結果、平成18年度の労働安全重点目標は、「作業手順を再確認し、墜落、建設機械、資材落下の3大要因事故を一掃しよう!」に決定致しました。今年度の工事は、橋を架けたり、斜面を均して道路を造ったりする工事が多いこと、また、大型の建設機械を使用することを理由に決定したものです。【工務課 西川英之】



討議する職員と施工業者の担当者

地元の方々とオオサンショウウオ移転試験を実施

地域との交流



移転試験の状況

平成18年3月25日(土)に地元の方々など約50名の協力をいただき、人工巣穴や川の中にオオサンショウウオを10個体放流しました。この移転試験に参加した子供たちは口々に「こんなに近くでオオサンショウウオを見たことがない。」「大きいね。」と喜んでいました。また、当日は環境学習会も開催し、オオサンショウウオ調査・保全対策委員会の富田委員にオオサンショウウオ



オオサンショウウオ

について貴重なお話をさせていただきました。

移転試験は、「オオサンショウウオ調査・保全検討委員会」の指導・助言を得ながら検討している保全対策のうち、「貯水池予定区域内のオオサンショウウオを貯水池予定区域より上流へ移転することによる保全」について検証するために平成10年度より行っています。

今後は、移転したオオサンショウウオ及び移転試験地周辺の環境についてモニタリング調査を行い、保全対策としての移転の効果を検証し、より効果的な保全対策の検討を行っていきます。【環境課 古賀勝之】

川上ダム建設促進期成同盟会 一周年総会

川上ダムの建設促進に向け!!!一致団結

平成18年3月28日(火)に青山ホール研修室において、昨年2月25日に設立され満一年を迎えた川上ダム建設促進期成同盟会(会長 西山甲平氏)の総会が、伊賀市長を始め三重県や国土交通省などの来賓の方々を迎え開催されました。

この同盟会は、平成17年4月9日に川上ダム建設促進に向け500人を動員した大規模な決起集会を開催するとともに各関係機関へ建設促進に向けた要望などの活動を行っています。

総会では、同盟会の活動報告と今後の計画が審議され、川上ダム建設所からも恒吉所長が招かれ、「川上ダム建設事業の現状と課題」と題した事業説明を行いました。最後に、建設促進の決議文を全員一致で採択し、国土交通省、三重県、伊賀市、水資源機構へ建設促進に向けた要望を行い総会を終了しました。



事業説明をする恒吉所長

【総務課長 上村信幸】

～平成18年度工事及び発注予定工事報告～

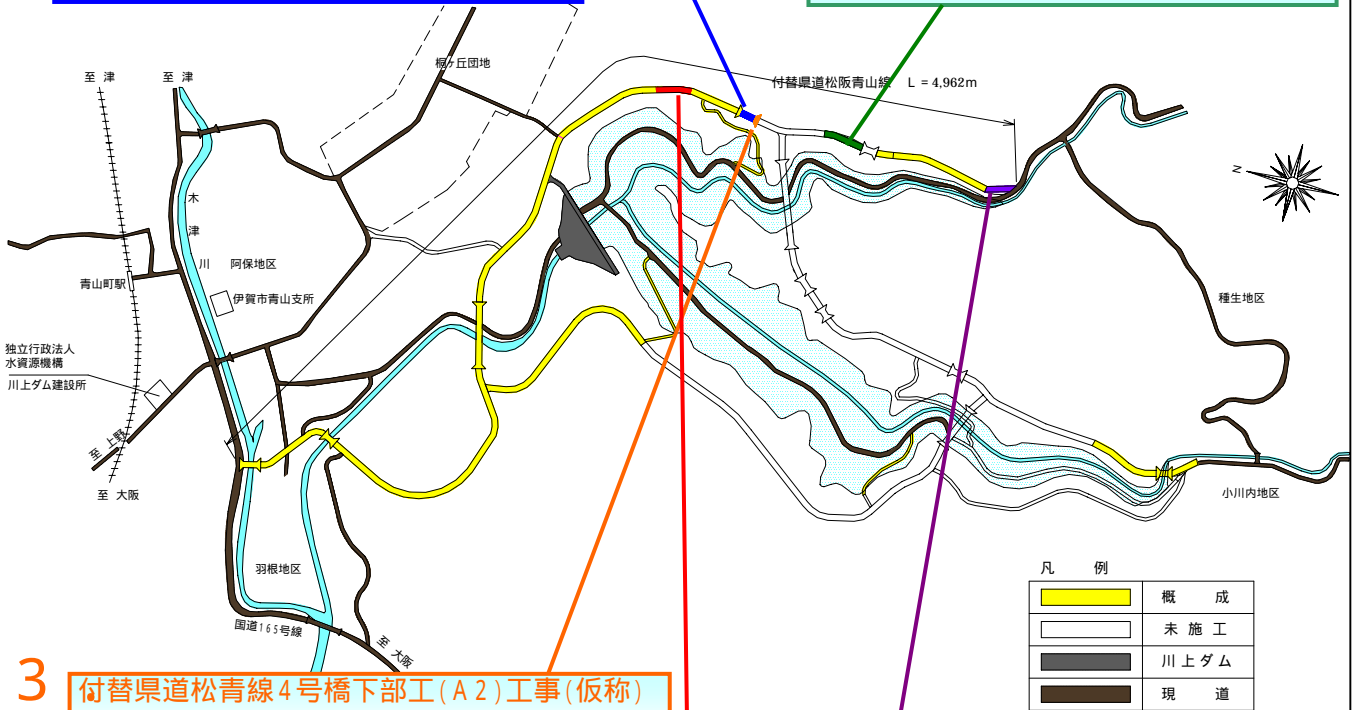
平成18年度の川上ダム事業に係る工事及び発注予定工事を紹介します。

現在、付替県道松青線4号橋上部及び第5工区(その5)を工事中であり、4号橋下部工、第5工区(その8)、第3工区法面对策は発注予定の工事となっております。今年度は主に付替県道松阪青山線の進捗を図っていく予定です。現県道上での工事並びに現道との取付け部分の工事もありますので、地域の皆様の安全を第一に工事を行っていきたく思います。今年度も地域の皆様のご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

【工事課 田中幸志】

1 付替県道松青線4号橋上部工工事
 工事概要：橋梁上部工1式
 橋長 = 107m、道路幅 = 7.5m
 工期：自 平成18年3月25日
 至 平成19年7月17日(480日)

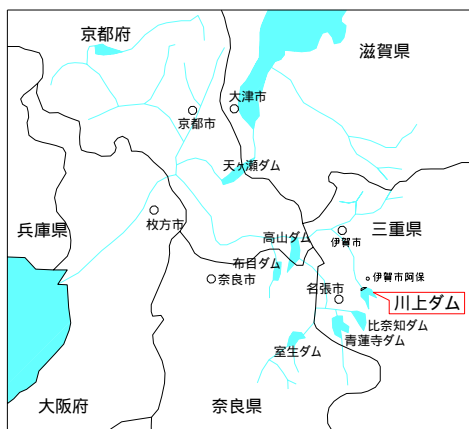
2 付替県道松青線第5工区(その5)工事
 工事概要：道路工1式
 道路延長 = 約240m、道路幅 = 8m
 工期：自 平成18年3月28日
 至 平成19年3月22日(360日)



3 付替県道松青線4号橋下部工(A2)工事(仮称)
 工事概要：橋台工1式
 工期：約7ヶ月
 発注予定時期：第1四半期

4 付替県道松青線第5工区(その8)工事(仮称)
 工事概要：道路工1式
 道路延長 = 約180m、道路幅 = 8m
 工期：約12ヶ月
 発注予定時期：第2四半期

5 付替県道松青線第3工区法面对策工事(仮称)
 工事概要：法面工1式
 対策範囲 = 約108m
 工期：約3ヶ月
 発注予定時期：第1四半期



新技術の紹介

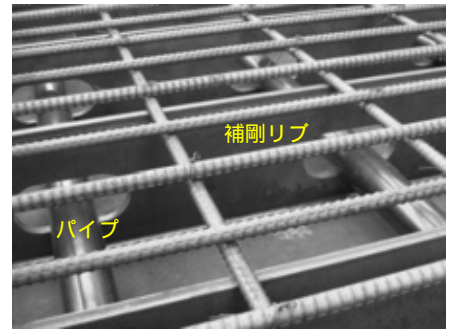
橋梁用鋼・コンクリート合成床版 「パイプスラブ」

今回は、付替県道松青線4号橋上部工工事で採用予定である橋梁用鋼・コンクリート合成床版『パイプスラブ』を紹介します。



合成床版施工状況(要石大橋)

『パイプスラブ』は、鋼パネルの補剛リブに設けた長孔にパイプを格子状に貫通配置させた構造の合成床版です。リブとパイプを格子状に配置することにより、鋼とコンクリートの結合を強固なものにし高い耐久性が確保できます。また、パイプ内部は中空のため、コンクリートを軽減でき、橋体重量の軽減とともにコストの縮減が図れます。この『パイプスラブ』は、現在供用中の付替県道松阪青山線の要石大橋にも採用しており、多くの皆様にも利用していただいております。【国土交通省ホームページ：新技術情報提供システム(NETIS)より参照】



パネル拡大写真

新人通信記者紹介



立石 浩行 (たていし ひろゆき)

平成18年度入社・調査設計課

出身地：愛知県

《通信記者になったの抱負》

水資源機構は「安全で良質な水を安定して安くお届けする」ことをモットーに社会にゆとりのある豊かな生活をもたらす支えていくことを使命としています。私は新規採用職員としてこの経営理念を実践すべく、川上ダム通信の記事を書きながらこの地域について勉強して、地域の皆様とふれあい、成長していきたいと思っております。

★ EVENT ★

御田植祭

田植えの時期に神社の神田で行う農耕行事。神田で巫女舞を奉納した後、早乙女姿の女兒が餅米の苗を植え、五穀豊穡を祈願します。

日時 / 5月14日(日)

場所 / 三田神社(伊賀市三田)

第19回青山高原つつじクォーターマラソン大会

青山高原道路で開催されるマラソン大会。3つの部門があり、中でも10.55km部門では高低差約110mもあり、走り応えがあります。春風に揺れるつつじや風車を見ながら走れるコースが人気です。

参加料金は大人2,000円。

日時 / 5月28日(日)

場所 / 当日受付：青山高原第一駐車場

編集後記

昨年の5月から発行を始めた『川上ダム通信』ですが、この4月号で1周年を迎えることができ、記事数は97記事、執筆者数は32人に上りました。今後も川上ダム建設所の動きをわかりやすく発信していきますので、よろしくをお願いします。

広報誌発行事務局

編集長 恒吉 徹(川上ダム建設所長)

デスク 上村 信幸(総務課長)

〃 北牧 正之(工務課長)

通信記者 武村 剛泰(総務課)

〃 田中 幸志(工事課)

〃 立石 浩行(調査設計課)